



新型コロナパンデミックを経て、保健ガバナンスはさまざまな改革の途上にあるが、ウクライナ戦争をはじめとする国際社会の分断の煽りを受け、その動きは順調ではない。またワンヘルスという言葉に代表されるように、パンデミックへの備えと対応には、環境問題など他の領域への配慮も必要となる。本講演会では、国際社会の分断が深まる中で、いかに次なるパンデミックに備える体制を築けば良いのかという問いを、現状を整理しつつ、考えてみたい。

第3回 IPE・SDGs 講演会

ポストコロナの

グローバル保健ガバナンス



講師

詫摩 佳代 氏

東京都立大学法学部教授

東京大学法学部卒業、  
東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻修士課程修了、  
同博士課程単位取得退学。博士(学術)。

専門は国際政治学、国際機構論。東京大学東洋文化研究所助教、首都大学東京法学政治学研究科准教授を経て2020年より現職。著書に『国際政治のなかの国際保健事業』（ミネルヴァ書房、2014）、『人類と病—国際政治から見る感染症と健康格差』（中公新書、2020）、分担執筆に『新しい地政学』（東洋経済新報社、2020）、『グローバル保健ガバナンス』（ミネルヴァ書房、2020）、『新時代のグローバル・ガバナンス論』（ミネルヴァ書房、2021）など。

2022年11月25日(金)  
16:20-17:50

オンライン開催(無料)  
参加登録はこちら▶



主催：東北大学大学院国際文化研究科

共催：東北大学グリーン未来創造機構

後援：MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

MS&ADインターリスク総研株式会社

本講演会はMS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社からの寄付を受けて国際文化研究科国際政治経済論講座 (IPE: International Politics and Economics)が実施しております。

お問合せ: [ipe.gsics@gmail.com](mailto:ipe.gsics@gmail.com)

